

## 第7回（2016年）性差医療情報ネットワーク（NAHW）九州支部セミナー報告

2016年4月14日、16日の熊本地震からひと月も経たない4月末の時点では、余震が続く熊本でのセミナーのため、世話人の意見はまとまらず開催自体が危ぶまれました。しかしその後、電気や水道などのライフラインの復旧や九州新幹線の運行再開などの環境要因の改善に加え、最も大切な被災地熊本在住の清田先生や河野先生から前向きなご意見を頂き、2016年5月14日熊本市医師会館にて第7回性差医療情報ネットワーク（NAHW）九州支部セミナーを予定通り開催することにいたしました。ところが、事前の広報活動は地震のため十分ではなく、その分の参加者減少とタイムリーな企画という点で増加の両方の要因があり、参加予測は難しく、また講演内容の若干の変更もあり、出足を見ながらのセミナー開催となりました。

まず清田先生の開会の挨拶と被災により亡くなった方への黙祷が行われました。



開会挨拶：  
清田真由美先生

### 講演① 松木貴彦先生「歯科領域から診た性差医療」

日本歯科医師では8020運動（80歳で永久歯20本以上が目標）を行った結果、平成17年に24.1%であった永久歯20本以上の割合が平成23年には38.3%と上昇した。80歳以上では女性より男性の方が高く、歯科に受診する機会が多い女性は結果的に抜歯をされている可能性が高いことを話されました。また顎関節症は顎関節に雑音を自覚、若い世代に多く、特に50歳代では顕著で、ストレスで増加の可能性があると話されました。



座長：河野宏明先生

松木 貴彦 先生

今回の熊本地震で日本歯科医師会は歯磨き指導を重視、誤嚥性肺炎の予防につなげたいと考え、方法として、キシリトール系ガムは唾液が出やすく口をモグモグするとうがい代わりになることから、メーカーの協力を得て被災地にキシリトール系ガムを配布したことなどを話されました。

### 講演② 嘉川亜希子先生「女性の心疾患の徴候を見逃さないために」



座長：中川幹子先生



嘉川 亜希子 先生

4月16日熊本地震の本震の日、たまたま勤務していた病院が人工透析を行っている施設であったため被災者の希望があれば全員受け入れる予定としたこと。2014年災害時循環器疾患の予防管理に関するガイドラインによると収縮期血圧が10mmHg高くなると心筋梗塞や脳卒中などの疾患は20%増加すること。災害時は交感神経の緊張が亢進しているだけでなく、食事では減塩が難しく、凝固能の亢進と脱水などが重なりやすいことなどを話されました。また災害急性期・亜急性期の高血圧治療の降圧目標は140mmHg未満とのことで、降圧薬の選択ではレニンアンジオテンシン系は脱水により降圧効果が大きくなりやすい点注意が必要で、その他、利尿薬やβ遮断薬は心配なため、結局、カルシウム拮抗薬が使いやすいことを話されました。

災害と関係の深いこつば心筋症について、身体的及び精神的苦痛があると高齢女性に好発、中越地震でも多発したこと。病態的には心尖部の動きが悪く心基部は良く動くのが特徴で、その他、虚血性心疾患の症状にも性差があることなどを話されました。

災害と関係の深いこつば心筋症について、身体的及び精神的苦痛があると高齢女性に好発、中越地震でも多発したこと。病態的には心尖部の動きが悪く心基部は良く動くのが特徴で、その他、虚血性心疾患の症状にも性差があることなどを話されました。

講演③ 新潟大学呼吸循環外科学榛沢和彦先生

「日本女性に多い災害後の静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）と遠隔期合併症」



座長：田中裕幸先生

榛沢 和彦 先生

熊本地震は2004年10月23日に起こった中越地震によく似ていると開口一番話されました。中越地震では53人の死亡があり、肺塞栓症では15人（全女性）のうち7人の死亡があった。原因は深部静脈血栓症（DVT）で、血栓の多くはヒラメ筋静脈にできたもので、その割合は90%以上を占めていた。ヒラメ筋静脈は太いほどDダイマー値が高く、具体的には車中泊、避難所、自宅の順に低下、また震源地に近いほどDVTができやすいなどの特徴があった。その他、血栓が出来やすい生活習慣は、水分摂取が少ない、トイレが少ない、男性では夜の飲酒などを

挙げ、車中泊では軽四輪や普通車が悪く、ワゴン車は避難所より良いものの、大きな車でも5人以上になると狭過ぎて足を延ばせないとか、足を挙上出来ないなどが問題と話されました。そのためDVTは女性に多く、外出少ない人に多く、ザコ（雑魚）寝に多いなどの特徴がある。また2012年のイタリア北部の地震では震災直後の車中泊率の高い市町村ほど1年後のDVT陽性率が高く、逆に震災直後のベッド使用率が高い市町村ほど1年後のDVT陽性率が低いことが報告されている。そのため熊本地震の避難所に段ボールベッドでもないと肺塞栓症は減少すると考えられ、自治体に購入を薦める助言を行う一方、全国段ボール工業組合連合会には被災地の益城町に5千台程度を提供していただいたことを話されました。さて、エコノミークラス症候群予防のための3ポイントとして①じっとせず運動②一日0.8リットル以上の水分補給③トイレを我慢しないなどが挙げられる。対策は弾性ストッキングが有効で、装着するとふくらはぎは小さくなり、フィブリンモノマーコンプレックス（FMC）が低下するため、今回の地震でも震災直後より被災地に届けられるよう活動したことを話されました。



座長：天野恵子先生



ところで、中越地震後8年間の脳・心血管イベントと下腿DVTとの関係では下腿DVTやDVTの既往があると肺塞栓症のオッズ比は73.30、脳梗塞のオッズ比は4.02、虚血性心疾患のオッズ比は1.98と有意に高かった。この結果からDVTは肺塞栓症以外の循環器疾患の予後にも大きく影響すると考えられ、熊本地震でも今後DVTについての追跡調査を熊大のチームと協力して行っていく予定と話されました。

（文責：医療法人ニコークリニック 田中裕幸）

追加発言の時間を頂き、河野先生、清田から熊本地震・大雨の被害状況を報告しました。その後、榛沢先生を囲んでのディスカッションでは活発な意見交換ができました。参加者



閉会挨拶：  
雨宮直子先生

66名（医師35名）の参加者の方々からは口々に“とても良かった”とのお言葉を頂きました。このような時機を得たセミナーを企画して頂いた田中先生、熊本を励ます為に来熊して頂いた先生方には、心より厚く御礼申し上げます。

（春日クリニック 清田真由美）



九州支部メンバーと  
天野恵子先生、堂本暁子前千葉県知事